

会 議 録				
平成29年度第2回 生活支援事業協議体	日 時	平成29年9月22日(金) 14時00分～16時00分	場 所	小金井市役所 第2庁舎 801会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	高良委員長(東京学芸大学) 近江屋委員(ボランティアセンター) 阿久津委員(地域福祉コーディネーター) 清水委員(民生委員児童委員協議会) 高橋委員(さくら体操リーダー) 第2層コーディネーター 黒松氏(小金井きた地域包括支援センター) 金子氏(小金井ひがし地域包括支援センター) 馬場氏(小金井みなみ地域包括支援センター) 雨宮氏(小金井にし地域包括支援センター)		
	事務局	鈴木高齢福祉担当課長、長谷川、松原、所(介護福祉課)		
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可	傍聴者数	3人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 開会				
挨拶 鈴木高齢福祉担当課長				
2 議題				
(1)報告事項				
① 平成29年7～8月分の連絡会議報告				
② 北多摩医療生協との連携について				
③ けやき通り商店街の取り組みについて				
④ 認知症講演会で行ったアンケートについて				
(2)協議事項				
① 評価シートについて				
② 二層協議体の位置づけについて				
③ ひがし地区の今後の具体的展開について				
(3) 次回協議体の開催予定				
3 その他				
4 閉会				

## 1 開会

(高良委員長)

平成29年度第2回生活支援事業協議体を始めさせていただきたいと思います。まず最初に、鈴木高齢福祉担当課長様から、お話をいただければと思います。

(鈴木高齢福祉担当課長)

高齢福祉担当課長の鈴木でございます。

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。現在市には、高齢者の居場所づくりの必要性について多くのご意見が寄せられております。そうした中で、本年度版のシニアのための地域とつながる応援ブックを作成するなどして、高齢者の居場所作りを進めているところです。作成に御協力いただいた皆様方に、厚く御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。以上です。

## 2 議題

### (1) 報告事項

#### ①平成29年7～8月分の連絡会議報告

(高良委員長)

「平成29年7～8月分の連絡会議報告」ということで、事務局から、よろしくお願いたします。

(松原)

7月、8月に行いました生活支援連絡会議の御報告をさせていただきたいと思います。まず資料1の1ページ目から、説明させていただきます。

1番の(1)評価シートの例文については、本日次第にもあります2議題(2)協議事項の①で協議をさせていただきたいと思っております。

(2)につきましても、これまでコーディネーターの皆さんには、コーディネート件数を報告していただいたところではありますが、書式でしたり、報告の内容について、少し統一をしなければならないという課題が出ております。また、包括支援センターの月報に入れ込むことも今後検討していく予定です。

(3)応援ブックの作成のスケジュールであります。10月をめどに、29年度の正式版の発行を予定しております。

(4)移動販売の情報提供についてですけれども、情報を集めている段階ですので、情報が集まりましたら、協議体にて、御報告をさせていただきたいと思います。

2協議事項(1)認知症講演会でのアンケートについては、本日次第の「(1)報告事項④」で御報告をさせていただきたいと思っております。

同じく(2)2層協議体の位置づけにつきましても、今回の協議体で「(2)協議事項」の②に上げさせていただいております。

続きまして、資料1の2ページ目をごらんください。

まず1北多摩中央医療生活共同組合とありますが、こちらは、第4回目の連絡会議のときに、北多摩中央医療生協の方に、地域でも健康づくり等を行っている、取り組みをしているということで、御担当の方に来ていただきまして、連絡会議で、活動についての説明をしていただきました。この件につきましては、本日の次第にあります

(1) 報告事項の②で御説明をさせていただきたいと思っております。

続きまして、2と3については、今回の協議体で、御報告をさせていただきます。

4の活動状況についての報告は、コーディネーターの皆様から、活動について、それぞれ御報告をいただいております。

5の次回協議体の内容について話しまして、後ほどひがし地域の活動報告として、ひがし包括の金子さんより、御報告をいただくこととなりました。

(高良委員長)

ありがとうございます。気になった点として、コーディネート業務の報告件数とか、等の報告に関しては、できる限り業務量を減らすような形で中に入れ込むとか、さまざまな工夫をすることが必要だと思いますので、引き続き、御検討をよろしく願いいたします。

#### ②北多摩医療生協との連携について

(松原)

資料2に沿って説明いたします。北多摩中央医療生活共同組合の活動としましては、市内にあります、むさし診療所・介護事業者等の施設運営をされている団体ですが、それ以外にも保健予防活動でしたり組合員活動といった、地域の高齢者に向けての健康づくりの活動を行っているということでした。これまでは、組合員を対象として活動をされてきたということですが、今後より幅広い高齢者に呼びかけていきたいということで、組合員以外の方にもぜひ参加していただいて活動の場を広げていきたいということでした。我々としても、高齢者の居場所作りの一環として今後協力していきたいという話になりました。また、既にきた包括とは連携して体操教室を実施されたということです。

(高良委員長)

ありがとうございます。きた地域包括支援センターの黒松様から、何か補足がありましたらお願いいたします。

(黒松氏)

もともと会員の方がやられているさくら体操の自主グループがあり、もう少し一般の方にも広めていきたいという御相談が入ってございました。現在、月に1回理学療法士がさく体操の自主グループを回ってくださっており、それに合わせてイベントを行いましょうということになりました。

(高橋委員)

今の話をお聞きして、各自主グループなどで取り組めた事例は、どこかで集約していただいて発信してもらえれば、他のグループにも広がっていくのではと思いました。

(高良委員長)

ありがとうございます。また、こういう組織と連携するときに気をつけなければいけないと思うのは、会員の勧誘をしてしまうみたいな危惧があると思うのですが、その点はいかがでしょう。

(松原)

向こうの担当の方からお話を伺っているのですけれども、勧誘よりは一緒に活動をしていてくれる人をふやしていきたいということで、お話を伺っております。実際に会員と非会員で、何か差が生まれるのかと聞いたところ、特にそういった差が生まれることはないとのことでした。

(高良委員長)

ありがとうございます。それでは今後の連携において、ご意見がある方はいらっしゃいますか。

(近江屋委員)

先日北多摩医療生協の方が、子供向けのお医者さん体験を他市でやっていて、小金井でもやりたいのだけれども、どうやって進めたらいいということで私どものところにご相談にられました。その時は子供向けのイベントについて話しましたが、お年寄り向けだと、健康講話とか医療の話などに、協力してもらうことはできないのではないかと思います。

### ③けやき通り商店街の取り組みについて

(松原)

前回の協議体でもお伝えしましたが、東京都で行っている東京ホームタウンプロジェクトの応募団体として、けやき通り商店会が小金井市で初めて参加されております。

資料3をごらんください。現在、商店会の会長と介護事業者や包括支援センターの職員が集まりまして、商店街の誰でも使っているトイレがあるとか、高齢者が休憩できる場所などを商店と一緒にまとめたリーフレットを作成する予定と聞いております。また、11月に商店会のお祭りがあるとのこと、それまでにリーフレットを完成させて配っていききたいというお話を伺っております。

(高良委員長)

他の地圏域では、商店会と連携をしていくみたいな動きはあるのでしょうか。

(金子氏)

ひがし圏域の中に、新小金井商店会と東小金井南口商店会の2カ所商店会があります。新小金井商店会については、地域の方はから閉店する店が増える中で、この商店

会には頑張ってもらいたいという声が包括にも届いております。そこで一昨年、この地域を中心としてエリアで、小地域ケア会議に似たような形で、「東町4丁目東部地区を知る会」を地域住民や民生委員、地域にある病院の先生などにも御参加していただき3回開催させていただきました。

その中で、課題をみんなで確認し合って、実際にひがし包括では独自の瓦版を作成したり、その地域にある保育園の園児さんと健康体操を一緒に行ったりするなどの活動に繋げております。

また、東小金井南口商店会さんは、自主的に東京都の事業を活用して、宅配事業を試行的に行いたいということで、御相談を受けておりました。お答えした内容としては、この辺の地域の方からは、お買い物が困っているという御相談を受けていますというような情報提供をしました。

(高良委員長)

ありがとうございます。しっかりと地域の状況をアセスメントされた上で、連携をそれぞれの状況に応じて、されていらっしゃると思います。

今回それぞれ御報告いただいたところ以外にも、いろいろ活動されていらっしゃると思いますので、そうした情報を発信していければ良いのではないかと思います。

#### ④認知症講演会で行ったアンケートについて

(所)

9月15日の認知症フォーラム講演会で行った、地域活動等への関心と参加に関するアンケートの集計結果を御報告させていただきます。資料4を御参照ください。

参加人数に関して、午前中に開催された認知症フォーラムには80人、午後の講演会には94人が参加され、そのうちアンケートに御協力いただいたのは62人となっております。

Iの年齢や性別などは、資料にて御確認いただければと思います。

IIの地域活動の認知度については、知っていると少し知っている、を合わせて47人となっております。また、地域活動で知っている活動は、健康維持や介護活動のための教室が一番多くなっておりました。

IIIの地域活動への参加につきましては、参加しているが29人、参加していないが31人となっております。

IVの参加してみたい活動としては、健康維持や介護予防のための教室が22人、次いで社会貢献できる活動が17人でした。そのほかの意見として、高齢者と子供の交流の場という意見がございました。

Vの日頃の生活で誰かに手伝ってもらっていることがあるかという質問については、ないが48人、あると答えた方も12人いらっしゃいました。

VIの地域の困りごとに力をおかけくださるとしたらできること、もしくは実際に行

っていることがあるかとの問いに対して、あるが11人、ないが30人という回答でした。

VIIの積極的に取り組んでいることはありますかの問いに対しては、あるが30人、ないが23人でした。

VIIIの積極的に取り組んでいることを生かせる場所があれば、協力できますかの問いに関しましては、協力できるが7人で、協力できないが18人でした。

IXの連絡先の御記入に関しては、18の方が御記入してくださいました。

今後もアンケートの実施やチラシ、応援ブックなどを活用しながら、生活支援体制事業の充実を図ってまいります。

(高良委員長)

気になったのは、VIの質問で、多分これはかなりの割合で、「ない」になると思うのです。というのも、「できること」もしくは「実際に行っていること」になると、かなり状態が違い過ぎるのです。

この聞き方は、全く状態が違うものを2個入れるのは難しいので、別に聞くかもしくはどちらかに寄せないとだめだと思います。

今後、このような形で情報をとられて、どのように活用されていくのですか。

(松原)

今回アンケートを実施したのは、市内の高齢者が行っている活動や、抱えている課題について調査し、今後の我々の活動に活かしていこうとしたからです。

(高良委員長)

この中の最後のところで、住所とか、氏名とか、電話番号などもお書きになられています。これに関しては、どういうことで活用されるみたいなことは、示された上でやられていますか。

(松原)

連絡先の記入を求めたのは、今後、地域で活動をされているという方に関しては、こちらから情報を発信する場合に使用させていただきたかったためです。

(高良委員長)

ここのところを、もう少し考えていただいて、今後、何にこの情報を使いたいのか精査したほうがいいのではないかと思います。というのも、連絡先を書いていただく方に、こういった時にご連絡を差し上げますというように伝えた方が良く思うからです。あと、こういうことなら私は協力できますといった方と連絡先を聞く場合には、それぞれのコーディネーターの方々にお繋ぎして、必要な時に連絡をとっていただいた方が良くと思います。

何を目的にやっていくかというのは、できれば連絡会議のときにでもコーディネーター皆様とお話し合いをいただいて、作られた方が良くと思います。

(松原)

既にこちらのアンケートにつきましては、コーディネーターの皆様からも見ているところではあるのですが、こうした連絡先等の個人情報を集めるに当たっては、回答者に対し説明をして参りたいと思います。

(高良委員長)

このアンケートにつきまして、ほかに御意見、御質問がありましたら、お願いいたします。

(長谷川)

今後、実際にこういったイベントに出てこられていても、参加をされていない社会活動がたくさんある中では、応援ブックなどを周知する際に、住所をくださった方たちに、積極的にイベントを周知していければと考えております。

(高良委員長)

ありがとうございます。今後、何に対してということを確認した上でとっていかないと、連絡をした際に、私はこんなものに覚えはありませんという話になってしまうと、いろいろ問題が出てくると思います。もう少しクリアな形で、お伝えをした上で、情報をとっていくという形を徹底する必要があるのではないかと思いますので、もう一度、そちらを御確認ください。

## (2) 協議事項

### ① 評価シートについて

(高良委員長)

それでは(2) 協議事項に移っていききたいと思います。

まず最初に①評価シートについてですが、資料5をごらんいただければと思います。

以前お見せしたシートと大きな違いとしては、地域課題分析・評価シートにつきましては、地域課題の説明を入れさせていただいたことと、あくまでも地域課題と考えられる課題の後の変化として捉える、つまり地域課題がどういうふうに変わっていったのかということ、年度末に記載していただく形となっています。

一方で、地域課題対応活動計画・評価シートにつきましては、昨年度も御記入いただいたものとほとんど変更はありません。ただ、こちら活動目標とは何なのかということと、手段とは何なのかという定義の説明を入れさせていただきました。

そして、以前具体的な人数などを書くのは、やはり難しいのではないかと御意見を一度いただいたことがあったと思うのですが、今回、あえて約〇〇人みたいに、記入例に書いてあります。これに関しては、絶対にこういう人数まで、全て書かなければいけないというわけではなく、できればそちらの方が書きやすい情報も中にはあるだろうからということで、記載しておりますので必須ではありません。

いかがでしょうか。御意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

(松原)

表の課題分析・評価シートの右上の地域課題の変化（結果評価）というところと、裏の対応活動計画・評価シート右上の活動目標の達成状況（結果評価）とあるのですけれども、これらは関連してくるのでしょうか。

(高良委員長)

I のところで地域課題があって、この地域課題がどうなっていったかを示すのが表面の内容です。これを記載するためには、裏面の活動の目標があって、それに対して、この目標に向かって、いろいろ活動しましたという達成状況が、この活動目標の達成状況のところにきます。

そうしたら、活動目標の達成状況ができればできるほど、いろんな活動をしていけばいくほど、要は地域課題が変化してきているはずなので、一番結果としてみるのは、地域課題の変化のところなのです。ですから、と地域課題によっては、活動目標の達成状況の記述が地域課題の変化と重複することがあるかもしれないけれども、多分ほとんどの場合は、重複はしないはずなのです。

(松原)

ありがとうございます。

(高良委員長)

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

それでは、この評価シートに関しては、継続的に実際に御使用されるコーディネーターの皆様から、御意見をいただきながら、必要に応じて、修正をするという勧め方でよろしいでしょうか。ありがとうございます。

## ②二層協議体の位置づけについて

(松原)

平成27年度に、小金井市では、第一・第二層と協議体を設置したところですが、第二層協議体の位置づけとしましては、具体的なところは各包括にお任せする形になっていたと思います。しかし、現状では第二層協議体は、今年度から第一層協議体が4回から3回になった分、重要性が重くなってくると考えたため議題に挙げさせていただきました。

資料6の1ページ目をご覧いただきたいのですが、今後の二層協議体の位置づけにつきまして「①生活支援コーディネーターが主催・参加し、地域資源の把握や地域課題について話し合ったもの（小地域ケア会議を含む）」「②生活支援連絡会議は含まない」の2点を提案させていただければと思います。

(高良委員長)

生活支援連絡会議は含まないとした意図は何ですか。



(松原)

連絡会議につきましては、その場の地域課題の解決について検討したいという場ではないため、第二層協議体としては含まない方向で、位置づけたほうがいいのではないかと思ったためです。

(高良委員長)

そうすると、生活支援連絡会議は、どこもカウントされないということですか。

(松原)

毎年参加された会議について、第二層協議体の会議とその他の会議として、件数及び内容を報告していただいております、そのうちのその他の会議の位置づけとして、報告していただくことはできると思います。

(高良委員長)

小地域ケア会議があったら、その後、ワーキングみたいなものにして話し合う地域懇談会はここに入るのですね。

(松原)

そうです。コーディネーターさんが参加されて、地域懇談会ですので、恐らく地域の課題については、検討することにはなると思いますので、二層協議体に含めていただけて大丈夫だと思います。

(高良委員長)

それでは、まずは生活支援コーディネーターの主催の方は参加して、地域課題の把握や地域課題について話し合ったものを、第二層協議体に位置づけるということは、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

次、②の生活支援連絡会議は含まないということで、よろしいですか。これは第一層にもならないのですか。

(松原)

事務局の松原でございます。

第一層協議体につきましては、本日のように、委員の皆様にご出席いただきまして、検討する場として、定義をつけさせていただいておりますので、第一層協議体にはならないと思うのです。

(高良委員長)

第二層協議体の目的というのは、あくまでも生活支援コーディネーターの方々が、しっかりと地域で活動ができるように、いろいろなサポートをしていき、検討するところだと思います。

そう考えたときに、生活支援連絡会議もかなりその意味合いが強いのではないかという気がするのですが、第一層の全てのフルメンバーが集まっていなくても、結局、ほとんどのメンバーは集まってやっている中では、第一層協議体として位置づけても、

余り問題はないような気がします。

皆様方、どうでしょうか。少なくとも第二層協議体の位置づけには含まないということに関しての御意見はいかがでしょうか。

(黒松氏)

地域課題を共有するとか、新たな課題を議題として出して、4包括のコーディネーターが意見を出し合うという場になるとしたら、二層の協議体として位置づけるとしてはいいのではないのでしょうか。

(高良委員長)

連絡会議の目的とは、第一層の間で、何を目的にされるのですか。

(松原)

まず1つとしましては、第一層協議体以外で、期間があいてしまって、お会いすることがなくなってしまうので、それぞれのコーディネーターさんがどのような活動をされているかということ、市側としても把握したいため、月に1回集まっているということがあります。

それに加えて、例えば各圏域で、活動について悩んでいるとか、具体的なアドバイスが欲しいということでしたら、そういったことも報告していただいて、それぞれのコーディネーターさんからも意見をもらいつつ、対応していこうと考えております。

(高良委員長)

となるとむしろ、連絡会議をどういう意味合いで、活用されたいのかということから、考えていったほうが良いような気がするのです。今、おっしゃられたような目的もあると思うのですが、それと同時に、今度、実際に、今、黒松さんがおっしゃっていただいたような活用方法もあるだろうし、そのあたりは、コーディネーターの皆さんがなかなか集まる機会がない中で、生活支援連絡会議は、定期的集まる機会になるわけですから、どういうふうに活用されたいかということ、一度、話し合っていただければどうでしょうか。

(松原)

また、我々の連絡会議で、検討させていただきたいと思います。

(高良委員長)

ありがとうございます。

それであれば、連絡会議で、もう一度、そのところを、むしろ今の実態にあわせて、どういうふうに活用されたいかということで、御検討いただければと思います。

### ③ひがし地区の今後の具体的展開について

(金子氏)

1 番目に、10月13日、第二金曜日の午後1時半から3時の時間帯をもって、居場所づくりというところのつきみの園内にサロンを開始する予定であります。

当面は、施設職員が主体で、コーディネートをしていきますが、いずれはボランティアさんの主体の活動に移行できればというところで、考えているところです。回数についても、様子を見つつ頻度を増やしていければと考えています。形態については、特に年齢制限は設けない形で、地域の方は、御自由に御参加くださいというフリースタイルで行う予定です。参加費用も100円ですが、自己負担をしていただく形をもって、場所提供をしていくというところで、法人とも話がついているところです。

2番目にハンドトリートメントの活動報告を致します。社協開催しているファシリテーター養成講座受講生の方が介護者、高齢者向けのハンドトリートメントのイベントが9月13日に行われました。

また、介護者を対象としたイベントを11月18日につきみの園のホールの会場で予定しております。当施設は、偶数月の第二土曜日に介護者向けの家族の会を行っておりまして、そちらと連携するような形で、奇数月の同じ第二土曜日に定期開催をして行けたらと考えております。

次に、東町4丁目を知る会で、瓦版の発行ですとか、園児さんとの体操というところを実施させていただいた経過があるのですけれども、そちらについて、好評をいただいていたところがありましたので、定期的にそういった会を続けていくという方向性で、検討してまいりました。今年度、なかなか着手できずにはおりましたが、11月24日の水曜日に、今年度1回目の園児さんと地域の高齢者の方の交流を含めた、健康体操を行いたいと思っております。次年度につきましては、定期開催という形で行って行けたらというところで、園側と御相談をさせていただいたところ、御了解をいただけたので、今後進めていければと考えております。

また、地域の資源というところで、情報提供になりますが、東小金井南口商店会さんが事業を利用されて、宅配事業を開始されることになりました。御報告をいただいております。対象地域が東町1丁目から5丁目、中町1丁目、2丁目というところ限定されますが、商店の注文を受けたりですとか、配達をするという事業になっております。その結果を見て、次年度以降事業化に向けて検討されていくということです。

そのほか、来月、ひがし包括では、小地域ケア会議を中町1丁目、4丁目地域にエリアを絞って、行う予定であります。

こちらの地域につきましては、昨年度も小地域ケア会議を行っておりまして、2回目という形になってまいりますが、1回目で出た課題について、買い物というところにテーマを絞って、今年度は予定しております。その会議を前に、地域の方に向けて、買い物支援アンケートというところで、買い物状況の情報を集めさせているところです。実際に地域の中町1丁目、4丁目にお住いの地域の方、また、地域にお住いの方

を御担当されているケアマネジャーさんに対しても、御協力のお声がけをさせていただいており、現在、回収中ではありますが、その内容も小地域ケア会議の中で、情報の報告をさせていただきたいと思っております。

加えて、新小金井商店会を、月に一回、包括職員が回らせていただいて、包括の周知や地域で心配な方の情報をいただいたりですとか、商店の方の御自身が御相談を受けたりしております。

今後についてですが、ひがしではマップ作成を目指そうというところで、活動計画を立てておりましたが、着手できずにいる状況であります。センターの中では、ひがし圏域内に特化したマップづくりにしたいというところ、さらに圏域の中でも、このエリアという形で地域を絞ってみてはどうか等の意見が出ています。応援ブックと重なる部分があるのですが、こちらは冊子版なので、携帯できるような簡易版のものでいいので、つくってみたいと考えております。

### (3) 次回協議体の開催予定

平成30年1月26日金曜日に開催決定

#### 3 その他

(阿久津氏)

社協が管理しているいこいの家で、本年度から、お花見会、お花畑会などをやってきました、今度は、お月見会をします。それと、今月の30日にひがし地域の地域懇談会をやります。また、きた地域も、ファシリテーターの皆さんと話し合っ「誰でも」サロンというサロンを11月8日に開く予定です。あと、ひとり暮らし高齢者会食会を11月に予定しております。福社会館がなくなってから、会場をとるのが難しくなっていますが、それでもボランティアさんが、おみそ汁とかけんちん汁などを作ってくれるのです。一人暮らしの高齢者は社協が把握しているだけでも700人ぐらいいらっしゃいますが、各地区での会食会な何十人も来ているので、うまく連携していけたらいいという気がします。

(近江屋氏)

他にも男の料理教室などを行っているところです。

(黒松氏)

参加される方は、何人ぐらいなのか。

(近江屋氏)

30～40人来て、プラスボランティアの人が来ます。清水さんも参加されてますよね？

(清水委員)

北部は40人ぐらい来ています。ボランティアが8、9人です。いつも公民館緑分館でやっています。

(近江屋氏)

会場の確保については苦慮しているところです。ぜひ施設さんなどがあると、ありがたいと思います。

(高良委員長)

設備が必要になってくると、やはり施設などと連携しないと難しいですね。

(近江屋氏)

年に1回しかやっていないのですけれども少しでもできればいいと思います。せっかくひとり暮らしの高齢者のデータを持っているので何かに活かせればと思っております。

(高良委員長)

おいおい、連絡会議でも御検討いただければと思いますし、こちらでも、何らかの形で検討できればと思います。

#### 4 閉会

(高良委員長)

それでは、第2回の「生活支援事業協議体」は、これで終了したいと思います。どうもありがとうございました。お疲れさまでした。